

世界経済におけるアジアの牽引者としての役割

クリスティーヌ・ラガルド

国際通貨基金 専務理事

2016年3月12日

インド・ニューデリー

おはようございます。この記念すべき「前進するアジア」会議をインドと共催するため、こうしてインドを再び訪れることができたことを嬉しく思っています。モディ首相、ジャイトレー財務相、そしてラジャン総裁のこの共同イニシアティブへのコミットメントに感謝いたします。

インドとIMFの歴史は古くまで遡ることができます。実際、インドは70年以上前のIMF創設時からのメンバーです。以来、我々のパートナーシップはますます強化しています。

インド、アジア、そして世界

我々がこうして集うにあたり、インドほどふさわしい場所はないでしょう。インドは、世界最速の成長を誇る主要国であり、その歴史において最大にして最も若い労働力を手にしようとしています。また、10年後には、世界で最も人口の多い国になるといわれています。

つまり、インドは、変化のためのかつてない機会を前にしており歴史上最も重要な岐路に立っています。たとえば「メイク・イン・インディア」や「デジタル・インディア」といった重要な改革が既に進められています。そしてさらに改革が期待できるということから、インドの星は明るく輝いています。

約10日後には、インドやネパールをはじめとした多くの国で、春の訪れを祝い「ホーリー祭（色の祭り）」が行われます。私は、習慣に倣い色を塗りあつたり水をかけあつたりしましょうと申しているわけではありません（これは子供たちに任せましょう）。しかし我々は本日、インド、そしてアジアがこれまでに成し遂げてきたことを祝うべきだと強く感じています。

アジアには誇るべきものが多くあります。アジアは世界で最もダイナミックな地域であり、今日の世界経済の40%を占め、今後4年間、若干勢いが衰えるにしても、世界経済の成長の約3分の2を占めるといわれています。

こうして経済面で重要な役割を果たしていることから、アジアのダイナミズムを最大に活用することが全世界の大きな利益です。

これまでのどのような実績をアジアは生かすことができるでしょうか。アジアは今日の世界経済の課題や試練にどのように対応することができるでしょうか。そして何よりも、その未来の可能性を現実のものとするために、何をすることができるでしょうか。

I. 最近の成果を足場にする

アジアの急速な世界経済への統合は、この時代で最も驚くべき世界の変化のひとつです。その比較的短い期間で、この広大かつ多様性に富んだ地域の多くの国が、経済の「奇跡」を起こし、なかには、世界経済の原動力となった国もあります。

これまで 25 年間、アジア危機にもかかわらず、この地域の経済は年約 6% の成長を遂げてきました。直近の世界金融危機の後には、アジアは貴重な輝ける場所となりました。

この経済の転換は、社会の発展を支えました。過去 35 年間、この地域は貧困削減の世界リーダーでした。教育と医療が大幅に改善しました。人々の生活水準も向上しています。

また、革新はアジアのキャッチフレーズにもなりました。毎日、世界中のほとんど全ての人々がアジアのテクノロジーに驚嘆しています。車、スマートフォン、そしてテレビが頭に浮かびますが、バイオテクノロジー、商用衛星、そして再生可能エネルギーなども忘れることはできません。

こうした相互連関の高まりは、今日アジアはかつてないほど世界に影響を及ぼしているということを意味します。そして同じように、アジアはやはりかつてないほど世界経済の情勢に大きな影響を受けており、これに対応しなければなりません。

II. 世界経済が抱える試練とアジアの対応

実際、世界経済は多くの課題を抱えています。市場と資本フローの変動は大きく、多くの国で経済の移行と金融の引き締めが行われています。原油を含む一次産品価格は大きく落ち込み、地政学的緊張は高まっています。

アジアはどのような対応策を講じるべきでしょうか。大まかに行動が必要な分野の幾つかは良く知られたものです。

- 金融政策での下支え—物価と対外的な安定性という目的との整合性

- 成長志向の財政措置
- 金融の安定性を保護するためのマクロ・プルーデンス施策

言うまでも無く、政策の内容は国や環境により異なります。しかし全てのケースで、競争力、成長率、そして雇用の促進において構造改革がカギだといっても差し支えないでしょう。いくつかの例を見てみましょう。

- 中国：債務による投資に依拠した経済から離れるという経済のリバランス（再調整）を支えるために信用配分を改善
- 日本：労働市場の二重構造への取り組み、製品市場の自由化、及びコーポレートガバナンス改革
- インド：製品市場の効率性の強化、民間投資の促進及びインフラの改善
- 新興市場国から低所得国にわたる多くの国：ビジネス環境の強化と債券市場の育成

こうした構造面に関する課題の対処に成功すれば、アジアの短期的・中期的見通しを支えるのみならず、同地域の刺激的な未来の可能性を解き放つ土台を確保することになるでしょう。

III. アジアの可能性を解き放つ

インドのノーベル文学賞受賞者であるラビンドラナート・タゴールはかつてこう言いました。「ただ立って水面を見つめるだけでは、海を渡ることはできない」。アジアは水面を見つめる以上のことを行ってきましたが、それでも、まだやるべきことが多くあります。

1990年以降、地域全体で所得の不平等が悪化しています。最新のIMFの研究によりますと、アジア22カ国・地域のうち15の国や地域で所得格差が拡大しています。アジアは依然として世界の貧しい人々の3分の2のホームであり、その多くがここインドで暮らしています。地域の大半で、労働市場で女性と若者が占める割合は著しく低いままです。

しかし、他の観点から考えれば、こうした懸念材料はチャンスでもあります。

もし所得格差が反転し、貧困削減がさらに進み、女性と若者が経済的に力をつけたらどうなるでしょう。成長がより包摂的となり持続可能となったら？もし、アジアの44億の人々それぞれが自らの可能性をフルに生かすことができたなら？

多くの可能性を想像することができます。問題は、これをどのように実現するかということです。

第一に、医療や金融といったサービスへのアクセスを拡大することが不可欠です。たとえば、インドは2018年までに全ての人々が銀行サービスへアクセスできるようにすることを目標にしています。「プラダン・マントリ・ジャン・ダン・ヨジャナ計画」により、2014年8月以降、それまで銀行口座を持てなかった2億1,000万以上の人々が銀行口座を開き、社会移転が直接支払われるようになっていきます。

第二に、財政政策の効果を生かすことが肝要です。これは、社会支出のターゲットを最も貧しい人々に絞ることを意味します。たとえばフィリピンなどの国々は、条件付現金移転プログラムの先駆的存在です。効果的な再分配のためには、コストのかかる一律の補助金を避けること、そしてより累進的な税構造を構築することも重要です。「アドハー」システムにより、インドは、ターゲットを絞って助成金を交付する画期的な方法を編み出しました。約10億人にアドハーと呼ばれるナンバーが交付されていますが、これを支払いや他のサービス—女性も含め—に使うなど、大きな可能性を秘めています。

第三に、女性のエンパワーメントが極めて重要です。そのやり方は、少女の質の高い教育へのアクセスを強化する、経済参加への法的・ロジスティック的な障壁を取り除く、さらに、女性の仕事と家庭の両立の実現性を高めるなど様々です。たとえば、モディ首相率いる政府のイニシアティブは「女兒救済・女兒教育スキーム」の下で女性の福祉サービスの改善を図っています。労働市場の二重構造と非正規化に取り組むことで、より多くの若者が正規の雇用に就くことが期待されます。これは高齢化が進む国にとり特に歓迎すべき後押し要因となるでしょう。

第四に、アジアでは8億を超える人々が、水や公衆衛生施設、電気へのアクセスがない状況にあります。このようななかでの包摂的成長の実現には、インフラへの更なる投資が必要で、その投資の効率性をさらに向上させることが必要です。

次に、貿易統合をさらに推進することで、特にインドや南アジアの他の国々でより持続的な成長を支えることができます。多国間的な貿易の自由化には、世界レベルでの繁栄を支える可能性があります。しかし、仮に、そのレベルで遅々として進展が見られない場合は、包括的な地域貿易協定が、関税・非関税障壁の削減、そしてサービスといった新たな分野を取り込むうえで効果的でしょう。

最後に、気候変動という試練もあります。昨年12月、歴史的なパリ協定の枠組みのなかで186カ国が緩和に関する約束を打ち出しました。彼らは、炭素価格の設定やエネルギー補助金改革などを通し、この約束を果たさなければなりません。明らかに、アジアはこの取り組みにおいて大きな役割を担っています。

確かにこれらは大変困難な課題です。しかし、アジアはこれに対応できると私は確信しています。私はこれまで何度もアジアを訪問しましたが、そのたびにその活力とエネルギー、そして人々の積極的な姿勢に驚かされます。

彼らは、既にアジアが何を成し遂げることができるのかを世界に示しました。再び世界にそれを示すことになるでしょう。

アジアとIMF

IMFはこの取り組みにおいてアジアのパートナーであること、そして高まり続けるアジアの役割の重要性が、これまで以上に我々の関係に反映されているとお伝えできることを嬉しく思っています。

今年はじめには、クォータ及びガバナンス改革が実現し、188加盟国のうちアジア新興国の代表権が強化されました。中国、そして日本とともにインドがIMFの10大出資国に加わったことは、その結果のひとつです。

さらに昨年末には、IMFのSDR通貨バスケットに円に加え二つ目のアジアの通貨である人民元を加えるという決定が下されました。

そして我々のパートナーシップのもうひとつの画期的な出来事が、インドネシアでの開催が決まった2018年のIMF年次総会です。

以上に加え来年、IMFは新たに「南アジア地域研修・技術支援センター」をここニューデリーに設立することになりました。この発表ができますことを心より嬉しく思っております。これは、我々にとり初の完全に一体化されたセンターとなる予定で今後の我々の能力開発関連活動のモデルとなります。インド政府はこのセンターのホストとなることを申し出てくださいました。ありがとうございます。さらにこれに加えインド政府による多額の資金コミットメントに心より感謝いたします。また、この画期的なイニシアティブの実現に向け、インド、IMF、そして外部パートナーであるオーストラリアや韓国に加わってくださった、バングラデシュ、ブータン、モルディブ、ネパール、スリランカに御礼申し上げます。

終わりに：アジアのグローバルリーダーシップ

マハトマ・ガンジーはかつてこう言いました。「未来は、『今、我々が何を為すか』にかかっている。

アジアのダイナミズムは、現在そして未来へ投資し、アジアを前進させるための歴史的な機会を提示しています。

これを実現することは、アジアを持続的な成長の軌道に乗せるのみならず、重要な貢献者として、そして21世紀のリーダーとしての、アジアの世界経済における役割を強化することになるはずです。

ご清聴ありがとうございました。